

平成26年度 事業報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

京都府菓子卸商業組合の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当組合の事業運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに第26期事業年度の決算状況をご報告申し上げます。

I 概 況

平成26年の我が国の経済は、「昨年4月の消費税増税後の落ち込みも回復傾向にあり、輸出は、円安による押し上げ効果もあって企業収益に改善の兆しが見られ、株高、原油安や政策効果などで景気は堅調に推移している」と言われています。しかし中小零細企業の多くは依然として厳しく感じられ、業種や規模による格差も拡がり、実体経済とかけ離れた大きなツブを感じています。

我々の業界を取り巻く環境も既存の市場が縮小する中で、原材料等の高騰による価格の上昇、また、安心安全の基準が高くなり、対応力のない販売店、生産者の廃業、倒産が全国的に広がっています。

今後も安全基準による規制が更に強化されることが予想され、マーケットが大きく変化します。絶えず消費者視線で顧客のニーズを捉えて、戦略を立てることが必要だと思えます。

さて、当組合の活動は、5月の通常総会には、公認会計士 長谷川佐喜男をお招きし、消費税増税後のあれこれやランチェスターの法則と弱者の戦略（ニッチ市場や細分化した市場に於いて独自のブランドを築く）について学びました。

9月には近畿菓子卸商業組合主催の「お菓子大好きキャンペーン」に参加協力、9月27日、京都駅イオンモールにてキャンペーンが開催されました。

10月の秋季セミナーは、総本山永観堂禅林寺管長中西玄禮氏をお招きし、「凛として生きる～心と経営～」と題してご高話を頂きました。

今回の講演会に際し、京都府菓子工業組合の各単組や近畿菓子卸商業組合の組合員そして一般市民にも幅広く呼びかけましたところ、お蔭様で113名という多数の参加者を頂きました。

多くの気づきと、心に沁みるいいお話であったと皆様にも大変喜んで頂き、このような企画を毎年して欲しいとのお声も頂きました。今後、当組合は、社会との関わりを大切にしていきたいと思えます。

同月、恒例になりました京都・近畿菓子卸商業組合の合同理事会を京都「菊乃井」にて開催、今回は、全国菓子卸商業組合連合会の関口理事長をお招きして、全国の菓子卸組合の現状やこれからの菓子のマーケットの動向についてお話を伺いました。当組合は、京都の独自性を活かした活動を今後も続けていきたいと思えます。

1月には、新春賀詞交歓会を全日空ホテルにて、73名の参加者を得て盛大に開催致しました。

また、2月3日の吉田神社節分祭には、当組合からも5名がお手伝いに参加、豆茶を参拝者に振る舞いました。

3月には、恒例の製販合同ボーリング大会を開催、組合員とその社員達がお互いに交流を深め、74名の参加者全員にプレゼントが当たり、楽しいひと時を過ごしました。

さて、世の中が大きく変化してきます。食品の表示法が4月1日から施行され、PBやOEM商品、袋詰加工品等の食品表示基準が変わり、今後の動向を注視する必要があります。また、人口減少が進む中、京都では、インバウンドマーケットに対する関心が大きくなっています。外国人観光客に、観光のみならず京都でお菓子を買ってもらうための仕掛けを、製販が共に知恵を絞り取り組んでいくことが、これから求められてくると思います。メーカー様とのコミュニケーションを更に深め、共に発展、成長できるよう努めて参りたいと思います。

今後とも、ご支援ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

京都府菓子卸商業組合
代表理事 谷口容造